

主な施策	事務 事業 番号	主要事務 事業名	事業概要	担 当 課	KPI（成果指標①）							KPI（成果指標②）							R7当初 予算額 （千円）	R7決算額 （千円）	評価	主な取組と成果に対する評価	今後の 方向性			
					指標名	基準 年度	基準値		中期 目標	R7目標値	R7実績値	達成率	指標名	基準 年度	基準値		中期 目標	R7目標値						R7実績値	達成率	
Ⅰ「稼げるまち」の実現																										
介護離職の減少に向けた 介護サービスの充実	1	介護サービス等給付費（在宅サービスの提供）	高齢者が支援や介護が必要になっても、住み慣れた地域で日常生活を営むことができるよう、訪問介護・通所介護などの在宅サービス・地域密着型サービスの提供を行う。	介護保険課	在宅サービスの利用人数	R5	34,248人		R7	35,250人	35,536人	100.8%										52,252,387	52,005,049	順調	「北九州市しあわせ長寿プラン」に基づき、地域密着型サービス（定期巡回・随時対応型訪問介護看護、小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護）の整備は予定どおり進捗しており、在宅サービス利用者の数も増加していることから、「順調」と判断した。	継続
	2	先進的介護「北九州モデル」推進事業	介護現場の働き方改革を推進するため、ICT・介護ロボット等を活用した業務改善手法「北九州モデル」の市内介護施設への普及を図り、先進的介護の実効性を高める。	介護イノベーション推進室	介護ロボット等導入施設数	R4	117件		—	180件	192件	106.7%										46,250	43,237	順調	市内5か所の介護施設に、介護テクノロジー等を活用した「北九州モデル」の導入を含む職場改善支援を実施した。 また、介護実習・普及センター（テクノケア北九州）にて介護テクノロジーに関する相談支援や機器等の試用貸出・人材育成などの支援を行ったことで、介護ロボット等の導入施設数は目標を上回っており、「順調」と判断した。	継続
多様な人材（高齢者、外国人）の活用による人材確保	3	外国人介護人材育成支援	外国人介護人材の介護福祉士の資格取得を支援し、介護の質の向上を図るとともに、介護分野への外国人の就労・定着を促進する。	介護イノベーション推進室	介護福祉士合格率	—	—		—	40.0%	80.0%	200.0%										2,500	1,695	順調	介護の質の向上を図り、介護分野への外国人の就労・定着を促進するため、外国人介護人材の介護福祉士取得に向けた講座を実施した。 介護福祉士国家試験では5名中4名が合格し、目標を大きく上回る結果となったため、「順調」と判断した。	継続
市内企業における「健康経営」の意識の拡大	4	地域・職域連携の推進	就労世代の健康づくりや事業所における健康経営を推進するため、「地域保健」と「職域保健」を推進する団体で設置した会議において、市域の健康課題やそれぞれの取組を共有し、効果的・効率的な官民協働の取組を進める。	健康推進課	健康経営を推進する市内企業等の増加	R5	1,464事業所		R5～R9年度までの目標：2,300事業所	1,750（R5～R7までの累計）事業所	1,624事業所	92.8%										8,000	7,051	概ね順調	令和7年度は「働く世代の健康づくり推進会議」を開催すると共に、生命保険会社等で構成する「普及啓発部会」を新たに設置し、官民協働で取組を進める体制整備を行った。 多様な主体との協働による健（検）診受診促進、健康経営推進のための啓発資材作成・配布、小規模事業場に対して健康づくり活動の支援を実施するなど、働く世代の健康づくりの促進に向けて着実に事業を進め、「健康経営を推進する市内企業等の数」も増加している。 引き続き、北九州商工会議所等の会議の構成団体等と連携し、効果的・効率的な官民協働の取組を進めていく。	継続
Ⅱ「彩りあるまち」の実現																										
彩りある文化・芸術によるにぎわいの推進	5	障害者文化芸術活動等推進事業	障害者の文化芸術活動の振興を図るため、作品展等障害者の文化芸術活動の発表の場を設けるとともに、障害者の創意意欲を助長するための必要な支援を行う。 また、とかく家に閉じこもりがちでサービスを受ける立場になりがちな障害者が、地域社会へ一歩踏み出し、社会の一員として自立するためのさまざまな支援事業を行う。	障害福祉企画課	障害者芸術祭への作品出展数	R5	268点		—	290点	247点	85.2%	障害者芸術祭来場者数	R5	1,200人		—	1,200人	1,000人	83.3%		8,355	8,328	概ね順調	作品出展数は247点となり、目標値を下回ったものの、作品展を通じて障害のある方の活動発表の機会を継続して提供することができた。 一方で、来場者数については前年度の800人から1,000人へと増加し、より多くの市民に障害のある方の文化・芸術に触れてもらうことができた。 今後も、出展作品の拡大に取り組むとともに、さらなる集客に向けた広報活動を強化し、文化・芸術を通じて障害のある方の社会参加に努める。	継続
スポーツによるにぎわいづくり	6	障害者スポーツ振興事業	スポーツを通じて障害のある人の体力の維持・向上や、機能回復等を図るとともに、社会参加を促進するため、市内の障害者スポーツ大会開催、障害者のためのスポーツ教室や水泳教室の開催に必要な支援を行う。	障害福祉企画課	障害者スポーツ教室参加者数	R5	1,033人		—	1,100人	1,097人	99.7%	障害者スポーツ教室新規参加者数	R5	233人		—	250人	270人	108.0%		51,791	51,702	順調	障害者スポーツ教室参加人数については、おおむね目標値と同等の1,097人であった。このうち、新規参加者数については、目標値を上回る270人を記録した。 新規参加者数が伸びていることは、障害のある人の社会参加促進に繋がったと考えられる。 今後も継続してスポーツに親しんでいただけるよう、スポーツ教室の開催場所や内容について、関係団体と連携を図っていく。	継続

主な施策	事務 事業 番号	主要事務 事業名	事業概要	担 当 課	KPI（成果指標①）							KPI（成果指標②）							R7当初 予算額 （千円）	R7決算額 （千円）	評価	主な取組と成果に対する評価	今後の 方向性				
					指標名	基準 年度	基準値		中期 目標	R7目標値	R7実績値	達成率	指標名	基準 年度	基準値	中期 目標	R7目標値	R7実績値						達成率			
Ⅲ「安らぐまち」の実現																											
人権文化のまちづくり	7	市民への人権啓発の推進	「人権文化のまちづくり」の実現に向けて、様々な手法を活用し、幅広く市民への人権啓発を推進する。	人権文化推進課	「人権尊重意識の5～6年前との比較で高まっている」と回答した割合（人権問題に関する市民意識調査:5年毎）	R2	19.7	%	R7	19.7	%以上	24.5	%	124.4									81,093	77,284	順調	人権啓発事業の参加数は目標を上回り（目標：33,000人、実績110,125人）、多くの市民へ啓発を実施できた。 また、人権問題に関する市民意識調査において、「人権尊重意識が5～6年前と比較して高まっている」と回答した割合も、目標値の19.7%を上回った。 以上のことから、「順調」と判断。	継続
地域包括ケアシステムの 深化・推進	8	生活支援体制整備事業	地域福祉活動の基盤を整備するため、地域支援コーディネーターを各区に配置することなどにより、住民主体による地域の支え合い活動の計画づくりを支援する。 地域特有の課題と資源を踏まえ、助け合い活動、買い物支援、高齢者サロン等の新たな社会サービスの創出を図る。	地域福祉推進課	小地域福祉活動計画の策定校(地)区数	R4	95	校(地)区	—	145	校(地)区	144	校(地)区	99.3									116,388	114,285	概ね順調	地域ごとの特性に応じた協議体づくり（住民等が地域課題について話し合う場）を支援した結果、運営支援校（地）区数は、令和7年度144校(地)区となり、目標144校(地)区を達成。見守り・支え合い活動、サロン活動、買い物支援の活動に発展している。 また、小地域福祉活動計画の策定校区数は概ね目標を達成していることから、「概ね順調」と評価した。	継続
	9	地域包括支援センターの運営	地域包括ケアシステムの構築を進めるため、総合相談や権利擁護、包括的支援、介護予防ケアマネジメント等の機能を担う、市内24の地域包括支援センターと、7の統括支援センターを設置、運営する。	長寿社会対策推進室	地域包括支援センターの認知度（北九州市高齢者等実態調査：3年毎）	R4	47.1	%	—	R4年度比増加	46.1	%	97.9									675,109	585,559	概ね順調	高齢者の総合相談支援業務を行っている地域包括支援センターでの相談件数や地域ケア会議の開催回数は、令和6年度と比較して相談件数は約20万件、会議開催件数は約570件と同程度であるため、「概ね順調」と判断した。 また、地域包括支援センターの認知度は、高齢者等実態調査の令和4年度比では、ほぼ横ばいであることから、更に周知に力を入れていく。	継続	
	10	地域リハビリテーション支援体制推進事業	高齢者や障害のある人、その家族が住み慣れたところでその人らしくいきいきとした生活ができるよう、地域リハビリテーション支援拠点を設置するとともに、医療機関や介護サービス事業所等の協力を得て、身近な地域でリハビリテーションに関する相談や支援が受けられる体制を構築する。	地域リハビリテーション推進課	リハビリテーション専門職の助言内容により高齢者の自立支援に活かすことができた割合	R5	92.0	%	R8年度までの目標：96.0%	93.0	%	96.0	%	103.2									36,500	34,531,121	順調	支援センターへの相談件数は減少傾向にあるものの、地域ケア個別会議や高齢者サロンへのリハ職派遣回数も目標を大きく上回っている。 さらに支援センターの関わりに対して、相談者の実務や対象者の自立支援への活用度は目標値を上回っている。 地域リハビリテーションの視点がケアマネジャー等の関係者や地域に浸透し、これまで以上に地域でのリハビリテーション専門職の関わりが求められていることに加え、現場における課題解決能力等「質的な向上」に繋がっていると捉えられることから「順調」と判断。	継続
	11	介護実習・普及センター（テクノケア北九州）運営事業関連	福祉用具及び介護テクノロジー機器の展示、専門相談支援、情報発信を行うとともに、市民・支援者に対する介護実習や研修を実施する。	介護イノベーション推進室	利用者満足度（指定管理者による利用者アンケート：毎年度）	R5	99.0	%	—	100.0	%	99.1	%	99.1									70,808	66,508	順調	福祉用具及び介護テクノロジー機器の展示、専門相談支援、情報発信を行うとともに、市民・支援者に対する介護実習や研修を実施した結果、相談支援件数は（目標:3,150件、実績:4,532件）と、大幅に増加した。 相談支援体制を整え、きめ細やかな対応を行ったことで、利用者アンケート結果は好評であったため、「順調」と判断した。	継続
	12	認知症にやさしいまちづくり事業	認知症の人やその家族が住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりを推進する。	長寿社会対策推進室	認知症と聞いて、家族に迷惑をかけそうで心配である人の割合（北九州市高齢者等実態調査：3年毎）	R4	53.9	%	—	R4年度比減少	51.9	%	103.9	認知症になっても自宅で生活を続けられるか心配である人の割合（北九州市高齢者等実態調査：3年毎）	R4	42.2	%	—	R4年度比減少	39.9	%	105.8	59,960	44,750	順調	認知症の人や家族が安心して暮らせる地域づくりを目指し、普及啓発の強化、相談支援の充実等を進めた。 その結果、認知症に対する不安感を示す指標はいずれも改善し、一定の成果が確認された。 引き続き、地域での理解促進と支援体制の強化に努める。	継続
	13	介護サービス等給付費（在宅サービスの提供）	高齢者が支援や介護が必要になっても、住み慣れた地域で日常生活を営むことができるよう、訪問介護・通所介護などの在宅サービス・地域密着型サービスの提供を行う。	介護保険課	在宅サービスの利用人数	R5	34,248	人	R7	35,250	人	35,536	人	100.8									52,252,387	52,005,049	順調	「北九州市しあわせ長寿プラン」に基づき、地域密着型サービス（定期巡回・随時対応型訪問介護看護、小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護）の整備は予定どおり進捗しており、在宅サービス利用者の数も増加していることから、「順調」と判断した。	継続

主な施策	事務 事業 番号	主要事務 事業名	事業概要	担 当 課	KPI（成果指標①）							KPI（成果指標②）									R7当初 予算額 (千円)	R7決算額 (千円)	評価	主な取組と成果に対する評価	今後の 方向性			
					指標名	基準 年度	基準値		中期 目標	R7目標値		R7実績値		達成率	指標名	基準 年度	基準値		中期 目標	R7目標値						R7実績値		達成率
	14	在宅医療の普及促進	患者の希望に沿った在宅医療サービスの提供がなされるよう、地域の専門職の参画促進や訪問看護の充実強化等、在宅医療の環境整備を推進する。	地域医療課	在宅療養支援病院・診療所数	R5	191	か所	R8年度までの目標：R5年度比増	R5年度比増		199	か所	104.2%										99,000	94,616	順調	在宅医療の提供体制の充実に向け、新規参入・拡充を促進するため医師等を対象とした研修会を開催（目標：50回、実績：85回）した。また、市内5か所に設置している「在宅医療・介護連携支援センター」を拠点として、医療・介護関係者の多職種研修や在宅医療に関する相談対応等を実施した。 あわせて、市民や医療・介護関係者の在宅療養への理解を深めるため、在宅療養パンフレットを作成したほか、講演会等の普及啓発活動を行った。 これらの取組の結果、在宅医療支援病院・診療所数および研修会の開催回数がともに目標値を上回ったことから「順調」と判断。 今後も、高齢化の進展に伴い医療・介護の複合ニーズが増加する中、住み慣れた地域で自分らしく暮らすことができるよう、在宅医療資源のさらなる確保と理解促進を目指し、提供体制の拡充や啓発活動に積極的に取り組む。	継続
支え合いのネットワークづくり（地域共生のまちづくり）	15	包括的な支援体制の構築	単身高齢者などの支援を必要としている人が社会的に孤立しないよう、住民、企業、行政等の地域全体で見守りを行う「いのちをつなぐネットワーク」を推進する。	地域福祉推進課	いのちをつなぐネットワーク協力会員の団体数の増加	R6	87	企業・団体	—	R6年度比増		87	企業・団体	100.0%										52,500	92,782	順調	包括的な支援体制の構築に取り組む、いのちをつなぐネットワーク担当係長による活動（地域福祉ネットワークづくり、相談対応等）がR6年度の1,970回からR7年度では2,111回に増加し、支援を必要としている人を地域全体で見守るネットワークが強化された。協力会員団体数は87企業・団体と昨年度と同程度の成果が出ている。 今後もいのちをつなぐネットワークの周知と協力会員の加入促進を継続し、地域全体で孤立を防ぐ支え合いの体制を一層充実させていく。	継続
	16	福祉ボランティア活動の推進	北九州市社会福祉協議会が行うボランティアの活動推進事業に対する補助事業。 ボランティア・市民活動センターにおいて、目的や対象に応じた講座の実施や、ボランティアコーディネート、ボランティア団体の活動支援、関係機関との連携による情報収集・発信等を行う。	地域福祉推進課	ボランティアコーディネートの件数	R4	4,386	件	—	5,100	件	4,884	件	95.8%										49,720	49,720	概ね順調	継続的なボランティアの啓発や活動支援により、ボランティア登録団体数及びボランティア人口は、昨年度と同程度（R6:612団体・18,189人→R7:629団体・18,188人）の成果が出ている。 コーディネート件数は、若干の未達であるものの、登録団体数は、目標達成しているため、「概ね順調」と判断した。	継続
	17	認知症にやさしいまちづくり事業	認知症の人やその家族が住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりを推進する。	長寿社会対策推進室	認知症と聞いて、家族に迷惑をかけそうで心配である人の割合（北九州市高齢者等実態調査：3年毎）	R4	53.9	%	—	R4年度比減少		51.9	%	103.9%	認知症になっても自宅で生活を続けられるか心配である人の割合（北九州市高齢者等実態調査：3年毎）	R4	42.2	%	—	R4年度比減少		39.9	%	105.8%	59,960	44,750	順調	認知症の人や家族が安心して暮らせる地域づくりを目指し、普及啓発の強化、相談支援の充実等を進めた。 その結果、認知症に対する不安感を示す指標はいずれも改善し、一定の成果が確認された。 引き続き、地域での理解促進と支援体制の強化に努める。
介護サービスの質・生産性の向上	18	介護シェアリング都市推進事業	北九州市が高齢化大都市のフロントランナーとして、介護業界に携わる関係人口を増やし、あらゆるリソースを動員して介護サービスを支える仕組みを構築する「介護シェアリング都市」の実現を目指し、介護人材確保に繋がる様々な事業を展開する。	介護イノベーション推進室	スケッター参加事業所数	—	—		—	30	事業所	54	事業所	180.0%										21,400	12,217	順調	介護人材のすそ野を拡大し、多様な人材の参入促進につなげるため、介護職のイメージアップに向けた情報をWEBなどで発信した。さらにスケッターを活用する事業所や市民向けの研修や広報を行うことで、介護未経験者のマッチング促進を図った。 スケッターの参加事業所は目標を大きく上回っており「順調」と判断した。	継続
	19	先進的介護「北九州モデル」推進事業	介護現場の働き方改革を推進するため、ICT・介護ロボット等を活用した業務改善手法「北九州モデル」の市内介護施設への普及を図り、先進的介護の実効性を高める。	介護イノベーション推進室	介護ロボット等導入施設数	R4	117	件	—	180	件	192	件	106.7%											46,250	43,237	順調	市内5か所の介護施設に、介護テクノロジー等を活用した「北九州モデル」の導入を含む職場改善支援を実施した。 また、介護実習・普及センター（テクノケア北九州）にて介護テクノロジーに関する相談支援や機器等の試用貸出・人材育成などの支援を行ったことで、介護ロボット等の導入施設数は目標を上回っており、「順調」と判断した。

主な施策	事務 事業 番号	主要事務 事業名	事業概要	担 当 課	KPI（成果指標①）							KPI（成果指標②）							R7当初 予算額 （千円）	R7決算額 （千円）	評価	主な取組と成果に対する評価	今後の 方向性					
					指標名	基準 年度	基準値		中期 目標	R7目標値		R7実績値	達成率	指標名	基準 年度	基準値		中期 目標						R7目標値		R7実績値	達成率	
医療提供体制の維持・確保、在宅医療の普及・促進	20	救急医療体制の維持・確保	夜間や休日における救急医療体制を維持・確保する。	地域医療課 夜間・休日急患センター 第2夜間・休日急患センター	救急医療体制の維持	—	—		—	—	医師会をはじめとする関係機関との連携を図り、救急医療体制を確保	—										1,209,607	1,190,742	順調	医師会、医療機関、行政の連携により、夜間・休日急患センターの運営や、救急医療体制確保に係る委託事業を実施した。これにより、一次から三次までの救急医療体制を維持・確保できたことから「順調」と判断。 今後も、医師の働き方改革や医師不足等、医療を取り巻く課題を注視するとともに、市内の救急医療資源の動向等も踏まえ、救急医療体制の維持・確保に取り組む。	継続		
	21	総合周産期母子医療センター、小児救急・小児総合医療センターの運営	【総合周産期母子医療センター（市立医療センター内）】 出生前から出産後まで母子に対する専門的な医療を24時間体制で提供する。 【小児救急・小児総合医療センター（市立八幡病院に併設）】 1次（初療）から3次（重篤）までの救急医療を24時間体制で提供する。	地域医療課	医療体制の確保・充実	—	—		—	—	必要な医師の確保や必要な医療器械を更新し、医療体制を確保	—											1,060,755	1,074,294	順調	総合周産期母子医療センターでは、24時間体制での周産期医療の提供、ハイリスク分娩患者の優先的な受け入れを行うことができた。また、小児救急センターでは、24時間体制での小児救急医療の提供を行うことができたため、「順調」と判断。 今後も、出生数の低下や働き方改革による医師の負担軽減の必要性に留意しながら、医療体制の確保・充実に取り組む。	継続	
	22	在宅医療の普及促進	患者の希望に沿った在宅医療サービスの提供がなされるよう、地域の専門職の参画促進や訪問看護の充実強化等、在宅医療の環境整備を推進する。	地域医療課	在宅療養支援病院・診療所数	R5	191 か所		R8年度までの目標：R5年度比増	R5年度比増	199 か所	104.2%												99,000	94,616	順調	在宅医療の提供体制の充実に向け、新規参入・拡充を促進するため医師等を対象とした研修会を開催（目標：50回、実績：85回）した。また、市内5か所に設置している「在宅医療・介護連携支援センター」を拠点として、医療・介護関係者の多職種研修や在宅医療に関する相談対応等を実施した。 併せて、市民や医療・介護関係者の在宅療養への理解を深めるため、在宅療養パンフレットを作成したほか、講演会等の普及啓発活動を行った。 これらの取組の結果、在宅医療支援病院・診療所数および研修会の開催回数がともに目標値を上回ったことから「順調」と判断。 今後も、高齢化の進展に伴い医療・介護の複合ニーズが増加する中、住み慣れた地域で自分らしく暮らすことができるよう、在宅医療資源のさらなる確保と理解促進を目指し、提供体制の拡充や啓発活動に積極的に取り組む。	継続
	23	精神保健夜間休日救急体制の整備・確保	夜間・休日の精神医療相談窓口を設置し、精神障害のある人及び家族等からの相談に対応する。 福岡県と政令市（福岡市、北九州市）が共同で夜間・休日の精神科緊急・救急医療体制（24時間365日）を整備する。	精神保健・地域移行推進課	精神障害のある人及び家族等からの相談に対する問題解決率（適切な情報提供及び助言）	R5	94.0 %		—	95.0 %	93.6 %	98.5%												36,742	36,564	概ね順調	夜間・休日における精神障害者及び家族等からの緊急的な精神医療相談に対応可能な窓口を設置し、必要に応じて医療等に繋げる体制の整備を行った。 精神障害のある人及び家族等からの相談（年間2,633件）は令和6年度に比べ約38.6%増加（733件増）しており、支援を必要とする方の相談機会の確保ができている。問題解決率は目標（95.0%）を下回ったものの高い水準で推移している。 また、医療体制については、福岡県と政令市（福岡市、北九州市）が共同で整備しており、安定的な運用ができていることから「概ね順調」と判断。	継続
ソーシャル・キャピタル（地域における繋がり）の強化	24	チャレンジ！コネクトアクション	校（地）区社会福祉協議会等の既存の地域団体が自分たちの力だけでは解決できない課題に対し、NPO団体等のテーマ性や専門性を持った団体と連携して、「ゆるやかなつながりが地域課題を解決する」仕組みの構築を図る。	地域福祉推進課	関係団体との連携により、地域課題が解決（継続も含む）した地域団体	—	—		—	3 団体	3 団体	100.0%											2,000	2,480	順調	令和7年度は、地域団体とNPO等団体との連携支援を3つの地域で開始した。いずれも年度内の課題解決には至らなかったが、団体間の連携は引き続き継続される予定である。	継続	

主な施策	事務 事業 番号	主要事務 事業名	事業概要	担 当 課	KPI（成果指標①）							KPI（成果指標②）							R7当初 予算額 （千円）	R7決算額 （千円）	評価	主な取組と成果に対する評価	今後の 方向性				
					指標名	基準 年度	基準値		中期 目標	R7目標値		R7実績値	達成率	指標名	基準 年度	基準値		中期 目標						R7目標値	R7実績値	達成率	
健康寿命の延伸・健康格 差の縮小	25	地域・職域連 携の推進	就労世代の健康づくりや事業所における健康経営を推進するため、「地域保健」と「職域保健」を推進する団体で設置した会議において、市域の健康課題やそれぞれの取組を共有し、効果的・効率的な官民協働の取組を進める。	健康推 進課	健康経営を 推進する市 内企業等の 増加	R5	1,464	事業 所	R5～R9 年度 までの 目標： 2,300 事業所	1,750 （R5～ R7 までの 累計）	事業 所	1,624	事業 所	92.8%								8,000	7,051	概ね 順調	令和7年度は「働く世代の健康づくり推進会議」を開催すると共に、生命保険会社等で構成する「普及啓発部会」を新たに設置し、官民協働で取組を進める体制整備を行った。 多様な主体との協働による健（検）診受診促進、健康経営推進のための啓発資材作成・配布、小規模事業場に対して健康づくり活動の支援を実施するなど、働く世代の健康づくりの促進に向けて着実に事業を進め、「健康経営を推進する市内企業等の数」も増加している。 引き続き、北九州商工会議所等の会議の構成団体等と連携し、効果的・効率的な官民協働の取組を進めていく。	継続	
	26	各種健診（検 診）の実施	生活習慣病の予防等のため、特定健診やがん検診等の実施、及び各種健診（検診）の受診促進を行う。	健康推 進課	メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の減少	R4	34.9	%	R11年度 までの 目標： 32.8%	34.2	%	集計中 （R8.11 月頃公 表予 定）	—	がんの年齢調整死亡率（10万人あたり）の減少	R2	男性： 444.7 女性： 205.2	R7年度 までの 目標： R2年度 比減少 ※国が国勢調査年ごとに算出するR7年齢調整死亡率（R10公表予定）を基に本市目標値を算出	単年度 目標設 定なし	—	—	1,308,682	1,186,741	概ね 順調	特定健診等、各種健診（検診）は計画通り実施できている。今後も引き続き市医師会と連携し、メタボリックシンドローム該当者等への保健指導を実施し、適切な受診や生活習慣の改善を促すことで成果につなげる。	継続		
	27	オーラルヘル スの推進	歯科疾患の予防等のため、生涯を通じた歯科健（検）診等を実施する。	健康推 進課	3歳児でむし歯のない者の割合の増加	R4	87.7	%	R9年度 までの 目標： 92.0%	単年度 目標設 定なし		89.7	%	—	かかりつけ歯科医がいる者の割合の増加（40～64歳）	R4	69.0	%	R9年度 までの 目標： 74.0%	単年度 目標設 定なし	62.6	%	—	106,001	105,408	概ね 順調	3歳児歯科健康診査の受診率は横這いであるため、引き続き、未受診者への受診勧奨ハガキ送付や母子手帳アプリを通じた通知等の受診促進策を行っていく。 一方で、3歳児でむし歯のない者の割合は（R6：88.8%⇒R7：89.7%）と令和6年度からさらに増加しているため、概ね順調とした。
高齢者の社会参加の推進	28	地域介護予防 活動実践者支 援事業	市民が身近な地域で健康づくりや介護予防に取り組めるよう、「きたきゅう体操」「ひまわり太極拳（タイチー）」「公園で運動教室」等の普及教室を開催する。 また、地域におけるリーダー（普及員）の育成・支援を行い、自主化・継続化を推進する。	長寿社会対策 推進室	通いの場に 参加した人 の割合 （介護予 防・日常生 活圏域ニ ーズ調査：3 年毎）	R4	19.3	%	—	23.0	%	22.9	%	99.6%								30,080	23,528	概ね 順調	市民が身近な地域で健康づくりや介護予防に取り組めるよう、「きたきゅう体操」や「ひまわり太極拳（タイチー）」等の介護予防教室の開催や普及員の育成等を実施し、成果指標もほぼ達成していることから、総合的には「概ね順調」と判断した。 今後も介護予防教室の開催や通いの場への出張講座の実施、普及員の育成等を継続して行う。	継続	
	29	高齢者地域人 材育成の推進	年長者研修大学校（周望学舎・穴生学舎）及び北九州穴生ドーム、並びに生涯現役夢追塾の運営や、高齢者の社会参加を促進する情報の総合的な収集・提供、マッチング、相談対応を行う「いきがい活動ステーション」の運営などを通して、地域で活躍する高齢者人材を育む。	長寿社会対策 推進室	地域活動につ いて、「行っ ている」と 回答した人 の割合の増 加（年長大利 用者アンケ ート：毎年 度）	R5	42.0	%	R8年度 までの 目標： 46.0%	46.0	%	43.4	%	94.3%								228,728	223,096	概ね 順調	いきがい活動ステーションのホームページ・SNS利用件数は、目標の48,000件を超える53,545件を達成しているものの、地域活動を「行っている」と回答した人の割合は、目標未達であることから、総合的には「概ね順調」と判断。 地域における支援を必要とする人の増加が見込まれる中、高齢者が長年培われた経験を活かして、支える側として社会の幅広い分野で活躍することを通じて、地域課題の解決につなげることが求められている。このため、地域活動・生涯学習・就業など横断的な生涯現役応援の仕組みづくりについて関係課長会議で検討を行った。	拡充	

主な施策	事務 事業 番号	主要事務 事業名	事業概要	担 当 課	KPI（成果指標①）							KPI（成果指標②）							R7当初 予算額 （千円）	R7決算額 （千円）	評価	主な取組と成果に対する評価	今後の 方向性						
					指標名	基準 年度	基準値		中期 目標	R7目標値		R7実績値		達成率	指標名	基準 年度	基準値							中期 目標	R7目標値		R7実績値		達成率
障害のある人の社会参加 の推進	30	障害者文化芸術活動等推進事業	障害者の文化芸術活動の振興を図るため、作品展等障害者の文化芸術活動の発表の場を設けるとともに、障害者の創意意欲を助長するための必要な支援を行う。 また、とかく家に閉じこもりがちでサービスを受ける立場になりがちな障害者が、地域社会へ一歩踏み出し、社会の一員として自立するためのさまざまな支援事業を行う。	障害福祉企画課	障害者芸術祭への作品出展数	R5	268 点		—	290 点		247 点		85.2%	障害者芸術祭来場者数	R5	1,200 人		—	1,200 人		1,000 人		83.3%	8,355	8,328	概ね順調	作品出展数は247点となり、目標値を下回ったものの、作品展を通じて障害のある方の活動発表の機会を継続して提供することができた。 一方で、来場者数については前年度の800人から1,000人へと増加し、より多くの市民に障害のある方の文化・芸術に触れてもらうことができた。 今後も、出展作品の拡大に取り組むとともに、さらなる集客に向けた広報活動を強化し、文化・芸術を通じて障害のある方の社会参加に努める。	継続
	31	障害者スポーツ振興事業	スポーツを通じて障害のある人の体力の維持・向上や、機能回復等を図るとともに、社会参加を促進するため、市内の障害者スポーツ大会開催、障害者のためのスポーツ教室や水泳教室の開催に必要な支援を行う。	障害福祉企画課	障害者スポーツ教室参加者数	R5	1,033 人		—	1,100 人		1,097 人		99.7%	障害者スポーツ教室新規参加者数	R5	233 人		—	250 人		270 人		108.0%	51,791	51,702	順調	障害者スポーツ教室参加人数については、おおむね目標値と同等の1,097人であった。このうち、新規参加者数については、目標値を上回る270人を記録した。 新規参加者数が伸びていることは、障害のある人の社会参加促進に繋がったと考えられる。 今後も継続してスポーツに親しんでいただけるよう、スポーツ教室の開催場所や内容について、関係団体と連携を図っていく。	継続